

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

カンキツかいよう病の発生と防除対策（技術情報第 11 号）について（送付）  
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

記

カンキツかいよう病の発生と防除対策（技術情報第 11 号）

カンキツかいよう病は、病原菌が雨で伝搬し、風によって飛散、侵入が促進されます。気象予報によると、向こう 1 ヶ月の降水量は平年並か少ない予想です。しかし、今後台風の襲来が多い季節を迎えますので、果実への感染が増加する恐れがあります。発生状況に注意して防除しましょう。

カンキツ類のかいよう病の発生状況

- ( 1 ) 7 月の巡回調査では発病葉率 8.3% ( 平年 3.9% )、発病果率 12.3% ( 平年 10.6% ) で、発病葉率は平年より多く、発病果率は平年並であった。( 表 1 )
- ( 2 ) 果樹研究所 ( 宇城市 ) の無防除「川野夏だいたい」は、7 月が春葉、果実共に平年より少ない発生であった。
- ( 3 ) 病害虫防除員からの報告では、7 月の発生は平年比やや多の発生である。

表 1 巡回調査における、かいよう病の発病率(病害虫防除所)

月	かいよう病葉率 (%)			かいよう病果率 (%)		
	本年(h18)	平年	前年	本年(h18)	平年	前年
5	0.00	0.85	1.00	-	-	-
6	5.00	3.60	7.33	-	-	-
7	8.33	3.93	7.00	12.33	10.60	24.00
8	-	3.73	9.67	-	8.73	24.67
9	-	4.67	11.33	-	10.53	24.00

平年は、過去 5 年間の平均値

防除対策

- ( 1 ) 夏秋梢のミカンハモグリガ食害痕には、本病が発生しやすいので、防除を徹底するかせん除する。
- ( 2 ) 風速 6 ~ 8 m 以上の強風を伴う降雨は、広い範囲に病原菌を飛散させ侵入を助長するので、台風が接近する 1 ~ 3 日前の薬剤散布を行う。この散布は襲来後の散布に比べ効果が高い。

表2 台風襲来期の薬剤適用表(カンキツかいよう病) 平成18年8月8日現在

農薬の種類	農薬の名称	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキシテトラサイクリンを含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
ストレプトマイシン水和剤	アグレプト水和剤	1000～1500倍	収穫21日前まで	5回以内	散布		5回以内
ストレプトマイシン水和剤	マイシン20水和剤	1000～1500倍	収穫21日前まで	5回以内	散布		5回以内
オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	アグリマイシン-100	1000倍	収穫30日前まで	4回以内	散布	4回以内	5回以内

注:薬剤は、平成18年度熊本県病害虫防除指針より抜粋した。

<p>お問い合わせ先                  熊本県農業研究センター 生産環境研究所                  病害虫研究室 予察指導係(病害虫防除所)                  担当:西口 電話:096(248)6490</p>
--